




# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 板櫃中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	板櫃中学校【全校生徒】 ・ 1年生 149名 ※3校時 ・ 2年生 208名 ※4校時 ・ 3年生 168名 ※5・6校時
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (保健体育科) ② 行事名 ( ) ③ その他 (講演会形式及び体験活動)
4 目標 (ねらい)	① 車いすを使って生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害を持った方たちと共生する社会について考える。 ② リオパラリンピック日本代表(女子ダブルス4位)二條実穂選手の体験談を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	○現2・3年生については、昨年度に保健体育科の授業において、オリンピックパラリンピック教育を行い、グループ活動で調べ学習を行い、オリパラ新聞を作成した。  ○本校玄関に2020年オリンピック、パラリンピック出場予定選手を掲示し、生徒の意識の高揚を図った。  

- 「リオパラリンピック車いすテニス元日本代表二條実穂氏との講和と体験学習を通して」
  - ・ 二條実穂氏の紹介
  - ・ 二條実穂氏による講話（45分）
  - ☆今までの経験からの生き方、自分自身の体験を基に
- 競技用車いす体験会（45分）
  - ・ 競技用車いす体験（3年生代表生徒）
  - ・ 競技用車いすテニス体験（3年生代表生徒）
- 二條実穂氏への質問タイム（10分）
- ※3年生のみ体験学習を行った。1・2年生は講話のみ実施した。
- 放課後の時間を活用し、本校ソフトテニス部へのアドバイス（30分）



6 主な成果

- 二條実穂氏の生き様や絶対にあきらめない精神力、困難なことへの向き合い方、気持ちの整え方等、生徒一人一人にとって、前向きな気持ちとなれるような大変わかりやすい講話であった。
- 二條実穂氏の話により、来年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックへの関心や期待、そして大会への意識を高めることができた。
- 障害をもった選手への尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、人の生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。
- 車いすを使う立場になって考え、障害をもった方たちと共生する豊かな社会をつくろうとする心情を養うことができた。
- 【生徒の感想から】
  - ・ 二條選手の話聞いて、自分も今、野球でなかなか上手くないがそんな時でも努力を続けていけば「必ず上手いいく」と前向きに考えようと思えた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、スポーツをすることは苦手だが、今日の話聞いて、来年のオリンピックを見ようと思いました。</li> <li>・車いすを操作することはとても大変でした。かなり力があるし、さらにその状態でテニスをするのは大変でした。車いすに乗っている人の大変さが分かった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数人ではあったが、実際に生徒が車いすに乗り、車いすテニスを体験できる場面を設定した。ハンディキャップのある人の大変さを体験できるようにした。</li> <li>○道徳科の授業において、オリンピック選手、井上 康生氏、パラリンピック選手、国枝 慎吾氏を題材とし「希望と勇氣・克己と強い意志」、「よりよく生きる喜び」を事前に学習し、トップアスリートの思考や生き方について触れることでオリンピック、パラリンピック選手への理解を深め、今の自分自身の言動について考えるようにした。</li> <li>○元日本代表選手の凄さを実感できるよう、展開を工夫した。</li> <li>○二條選手が気持ちよく来校できるように、校内のあらゆる段差をなくすため、スロープをレンタルし、トイレ等も改修した。</li> <li>○車いすの講師の方の対応が、学校側として初めてだったため心配したが、二條実穂選手が介助を必要としていることをはっきりと伝えてくださり、スムーズに送迎、進行することができた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当初は、全学年で体験学習を計画していたが、車いす、ラケット等道具を用いての体験学習のため、新型コロナウイルス感染防止の観点より1学年、数名の生徒のみの体験学習となった。来年度は、全校生徒が講話を受け、体験できる内容の講演会を検討していく。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、オリンピックを意識した種目を取り入れるようにしていた体育大会が中止となったので、来年度の体育大会で実施したい。また、学年行事(クラスマッチ等)でパラリンピック種目を行いオリンピック、パラリンピックへの意識の高揚を図りたい。</li> <li>○様々なスポーツをしている方々と触れ合い、交流する機会を作り、生徒が生涯を通じてスポーツに親しむ心を育てていきたい。</li> </ul>